

Dr. Nongluck Phinaitisart President of THAICOM Public Company Limited



Thaicom衛星通信公社の社長であるDr. Nongluck Phinaitisartは、アジア太平洋地域と世界の衛星通信システムのアプリケーションについての事業戦略を情熱的に語ると共に、彼女の社長として、更にAPSCCのCEOとしての活動を深い情熱をもって紹介し、語ってくれました。

Space Japan Review (SJR): 本日はAIAA JFSC SJRの企画CEO インタビューのため、お忙しいところお時間頂きありがとうございます。日頃からAIAA日本衛星通信フォーラムへのご協力に感謝いたします。Space Japan Review (以下SJR)はAIAA-TCCSの小委員会であるAIAA日本衛星通信フォーラムによって発行されている通信技術に関する定期刊行物です。初期にはハードコピーの会誌として発行されていましたが、現在はインターネットを通じて電子配信されるようになりました。

このコラムでは世界中の通信衛星開発、製造、衛星通信オペレータ各社のCEO、社長の事業戦略や将来展望などを議論して頂く機会を提供し、AIAA会員やSJR読者の勉学の機会と参考になっています。THAICOM社は創立して20年以上になりますが、本日はNongluck社長の衛星通信ネットワークビジネスに対する戦略と、もし可能であればAsia-Pacific Satellite Communications Council (以下APSCC)についてもお伺いしたいと思います。

まずは、あなた自身とTHAICOM社の経歴、および今後の戦略について手短かに教えてくださいませんか？

Dr. Nongluck Phinaitisart:

私は1959年に生まれ、私の父は私がまだ幼少の頃、私に小さな望遠鏡を買ってくれました。私はその望遠鏡を通して地球からはるか遠くに離れた月、火星、金星等の惑星や多くのすばらしい星々を見ました。この経験が元で私は宇宙関連ビジネスに従事することになりました。

1977年にバンコクの修道院付属学校を卒業し、Chulalongkorn大学へ入学、同大学で電気工学博士号を取得しました。その後、タイ通信省で10年間勤務し、1986年～1987年にはIntelsatの仕事をしました。1991年からはThaicom PCLに勤務し、2000年からは社長を務めると同時に、Thaicom Satellite の営業部門、マーケティング部門、及びエンジニアリング部門の責任者を務めております。

SJR: Thaicom社は20年以上前からタイに拠点を置く会社として、通信と放送の中継サービスを提供してきた会社であると理解しています。現在では宇宙技術を地球上すべての人々にとってより手頃でより身近で使いやすいものにし、アジア初の衛星放送通信アプリケーションシステムを提供しようと努力されています。そんな中で、貴方とあなたの会社の今までと将来のビジネス展開に対する指針(ポリシー)と戦略をお話し頂けますか？



Fig 1 JFSC飯田氏によるDr. Nongluch CEO Interview

Dr. Nongluck Phinainitisart:

従来の衛星利用ではビデオ放送アプリケーションに注力してきました、今、私たちはお客様に対して、Teleportサービス、MCPCプラットフォーム、IRD(受信機と復号機の集積された技術)を含む、両端末間(end to end) ビデオ放送サービスの提供を提案してきました。広帯域衛星通信分野では各市場の戦略的パートナーたちと協力し、コンシューマーブロードバンド、教育アプリケーション、IP 関連事業に注力してきました。

従来の衛星利用ではビデオ放送アプリケーションに注力してきました、今、私たちはお客様に対して、Teleportサービス、MCPCプラットフォーム、IRD(受信機と復号機の集積された技術)を含む、両端末間(end to end) ビデオ放送サービスの提供を提案してきました。広帯域衛星通信分野では各市場の戦略的パートナーたちと協力し、コンシューマーブロードバンド、教育アプリケーション、IP 関連事業に注力してきました。

SJR: 既にアジア太平洋地域における衛星経由高速インターネットのための衛星広帯域通信コンテンツサービスを提供するIP-STARのユーザーターミナルを開発しましたが、今後はどのようにしてビジネスフィールドを広げていくご予定ですか？又この分野でのビジネス戦略を教えてください。

Dr. Nongluck Phinainitisart:

以前は衛星通信のユーザー端末機器の高コストが理由で、衛星ブロードバンドコンシューマー市場は非常に限られたものでした。そのため我々の主要戦略は衛星ブロードバンドコンシューマー市場に消費者達が手軽に参入できるように低コストのユーザー端末機器を開発する事でした。そして我々はそれを達成し、これまで既に20万ユニットを販売しました。現在では他社も同様にこのコンシューマー市場に参入しています。Thaicom社はユーザー端末機器を継続的に開発していますが、衛星搭載トランスポンダー帯域幅の販売も引き続き優先的に進めています。

SJR: 現在あなたはThaicom社の社長とAPSCC CEOを兼任されています。読者に向けてこの組織での活動をご紹介下さい、又両組織の調和のとれた運営をどのようにして実行されているのかをご紹介頂けますでしょうか。

Dr. Nongluck Phinainitisart:

1994年10月、韓国ソウルでAPSCCの発足協議会が開かれ、その後APSCCは正式に設立されました。私は昨年10月に東京で開催されたAPSCC2010を含め、2006年からAPSCC活動の全責任を担っております。APSCCは非営利国際団体であり、産業、民間、国有、政府省庁、政府機関、学会教育団体、研究団体を含むすべての衛星、宇宙に関する機関の代表としての役割を担っております。APSCCの一般的な基本指針は、衛星経由での通信、放送分野を活性化すると同時に、アジア太平洋地域での社会経済、福祉活動を活性化することです。



Fig 2 APSCC2010でパネリスト役のDr. Nongluck

SJR: アップグレードされた広帯域衛星通信ビジネス開発の主な業績をご紹介頂くとともに、その業績を将来のビジネス展開にどのように生かしていくのかを教えてくださいませんか。

Dr. Nongluck Phinainitisart:

我々のプロジェクトである衛星高速インターネットIP-STARの主な目的は、顧客に低コストで大容量なサービスを提供する事です。IP-STARの帯域幅コストは従来衛星の3~4倍は安くなり、その通信速度は約40Gbpsです。これらの性能はIP-STAR が3G/4Gネットワークシステム拡大の基盤設備として使用されるのに一役かっています。

SJR: 世界的に見て次世代のビジネス開発はどのようになっていくとお考えですか？ そして日本を含む国際ビジネス開発戦略を如何お考えでしょうか？

Dr. Nongluck Phinainitisart:

日本市場向けには、我々はIP-STAR衛星THAICOM4しかありません。ですから、今後は3G/4Gネットワークの IP基盤技術のビジネスに注力する予定です。

例えば、日本における衛星通信運用ビジネスは、ほとんど飽和状態にあります。途上国においてはオペレーション関連の衛星プロジェクトは国をあげて行うべきプロジェクトです。そのため途上国での開発機会はまだまだ存在します。近い将来にアジア太平洋各国で形成された国際団体によって、アジア太平洋衛星通信とナビゲーションシステムオペレーションが設立されるでしょう。

SJR: 高性能な広帯域衛星通信サービスを世に広めた、タイ国にある御社の施設を、その性能と能力に非常に興味をしめしている我が国の読者にご紹介頂けますか？

Dr. Nongluck Phinainitisart:

THAICOM社はタイに拠点を置く会社で、通信回線、放送回線に関連する衛星中継機器サービスを提供しています。当初は国内通信、国際通信、IP-STARのユーザーターミナル販売、ブロー

ドバンドコンテンツサービス、直接放送TV装置販売、インターネットデータセンターサービス、インターネットサービス、衛星アップリンク-ダウンリンクサービス、モバイルコンテンツ、通信技術・電子機器の設計・開発サービスに中継機器サービスを展開して来ました。これらのサービスは主に事業認可が必要でした。我々の会社はタイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、モーリシャス、英領ヴァージン諸島、日本にオペレーションを持ち、7か所の直営子会社を保有しています。IP-STARサービスは日本においても我々のTOKYOゲートウェイを通じて利用できます。TOKYOゲートウェイは昨年完成しました。もし我々のサービスにご興味がありましたら、以下日本オフィスウェブサイトにご連絡ください。
www.ipstar.jp.

SJR: 衛星ブロードバンドサービスは社会に必要なものとして表面化してきており、日本では2008年2月23日に高速インターネット衛星WINDSが打ち上げられ、その利用は着実に増加しています。一方海外ではIP-STARのような衛星があります。貴社が開発した衛星を利用した衛星オペレータビジネスとそれらを組み合わせたビジネス戦略についてのお考えをお聞かせください。



Fig 3: 会話を続ける飯田氏とDr. Nongluck

Dr. Nongluck Phinainitisart:

現在、我々は日本の3G 基盤技術サービスを持ったモバイルオペレーターと一緒に仕事をしています。我々のサービスは地上通信ネットワークが行き渡らない地方/過疎地域に3Gネットワークを展開する事を支援するのを目的としています。

SJR: 日本の宇宙開発政策に関する宇宙基本法と基本計画が2008年と2009年に制定されました、これにより新たな宇宙開発分野の活性化が期待されています。この市場に参入するにあたってのThaicom社の戦略を教えてくださいか？

Dr. Nongluck Phinainitisart:

我々は宇宙基本法に準拠する為にパートナーと協力してビジネスを進めていくつもりです。日本のビジネスパートナーによると、我々は上記で述べられているルールに従わなければなりません。

SJR: すべてのビジネスが着実に成長している中で衛星ビジネスへの価格配分がそれほど伸びていません、それは恐らくギリシャ銀行倒産によるヨーロッパ危機の影響によるものだと思います。貴社は投資家関連プログラムとその他の活動に対して対応策を講じていますか。

Dr. Nongluck Phinainitisart:

現在のところヨーロッパ危機は我々の会社には影響していません。我々の主な市場はアジア太平洋にあり、顧客へのサポートを顧客の近くで行っています。多くの政府機関が衛星事業を含む多くの通信回線インフラストラクチャーに投資しています。そのため、アジア地域での衛星通信関連事業では着実な成長が見込まれています。



Fig 4 インタビュー終了後の懇談

SJR: AIAA日本フォーラムは衛星インターネット、モバイル通信、光ファイバーサービスプロバイダーの3機関で競合する様な衛星通信ビジネス開発を進めると同時に最新の衛星通信の開発を進めてきました。将来の日本の宇宙開発にとってどのような技術開発が必要になるとお考えですか？日本の読者にご提案頂けましたら幸甚です。

Dr. Nongluck Phinainitisart:

日本には宇宙開発基本法と基本計画があります。山川宏氏：宇宙開発戦略本部事務局長、本間正修：宇宙航空研究開発機構(JAXA) 理事、は小型衛星、小型ロケット、地球観測衛星、準天頂衛星、IGSプロジェクト、はやぶさ後継機等の衛星開発プロジェクトを説明されてきました。両者共に準天頂衛星プロジェクトの詳細機能にまで触れていらっしゃいます。我々は準天頂衛星の衛星測位システムが日本地域だけでなく、アジア太平洋地域にも広範囲にカバーしていることに興味があります。我々は準天頂衛星の位置測位システムがアジア太平洋地域でも使用できる事を期待しています。また、将来の衛星通信で世界的に使用されるであろうWINDSシステムの高速ブロードバンド衛星通信技術開発にも興味があります。

SJR: 最後に日本フォーラムでは現在AIAAと一緒にAIAA ICSSC2011を開催する計画があります。場所は日本の奈良になります。このコンファレンスはKaバンド衛星通信会議の協賛によって運営される予定でありましたが現在は単独開催で進めております。その節は 何卒ご協力の程宜しくお願い致します。

Dr. Nongluck Phinainitisart:

それはいいニュースですね、日本での会議開催に感謝します。我々も全力でサポートいたします。

SJR: 広帯域衛星通信システム開発に引き続きご協力頂きたく存じます。

本日はSJRのためにお時間頂きありがとうございました。AIAA JFSC SJRの活動への引き続きご支援よろしく申し上げます。

Planning & Editing:
Dr. Susumu Kitazume
Special Editorial Advisor